

火災への対策

自助：自分と家族の命を守る

電気の対策

ブレーカーの位置の確認

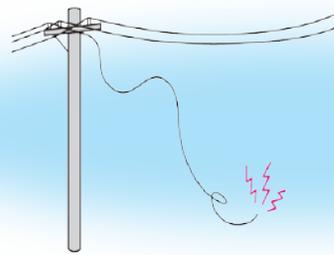


地震の後、ガス漏れがある時や電気のコードが家具の下敷きになっている場合は、火災発生のおそれがありますので、すぐにブレーカーを切るようにしましょう。また避難する時も切っておきましょう。

〇感震タイプの器具（設置例）



地震の揺れで重りが落下し、ブレーカーの電源が落ちる。



垂れ下がった電線は、大変危険ですので絶対に触らないでください。

ガスの対策

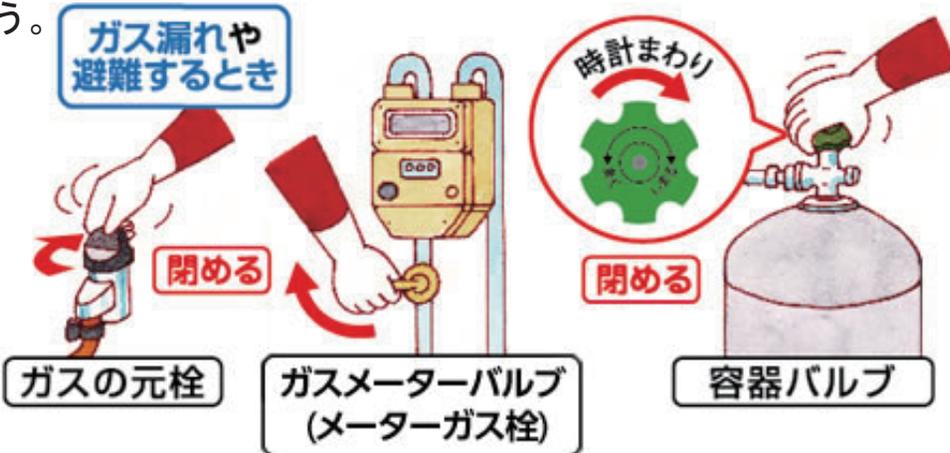
調理中に地震が起こった場合、無理して火を消さずに揺れが収まるまで身の安全を確保し、揺れが収まってから火元を消すようにしましょう。



揺れがおさまったら

器具栓

ガス漏れがあった場合や避難するときは、ガスボンベの容器バルブを閉めましょう。



ガス漏れや避難するとき

閉める

ガスの元栓

ガスメーターバルブ
(メーターガス栓)

閉める

容器バルブ

マイコンメータ



ガス使用中に震度5相当以上の大きな地震を感じると、自動的にガスを止めます。

(ただし、ガスを使用していないときは、ガスを遮断しない機能になっています。)

その他の対策

住宅用火災警報装置

煙を自動的に感知して、火災など異常をいち早く警報音で知らせます。



電池式の場合は電池の確認をしてください。

消火器



使用期限等の表示例

設計標準使用期限
2027年まで

地震発生後に火災が発生しても、消防機関は、多数の出動や道路状況などにより対応できない場合があります。延焼を防ぐためにも、すぐに消火することが大切です。

普段から消火器を備え、訓練などで使い方を覚えておきましょう。

消火器には、使用期限がありますので確認をしてください。

